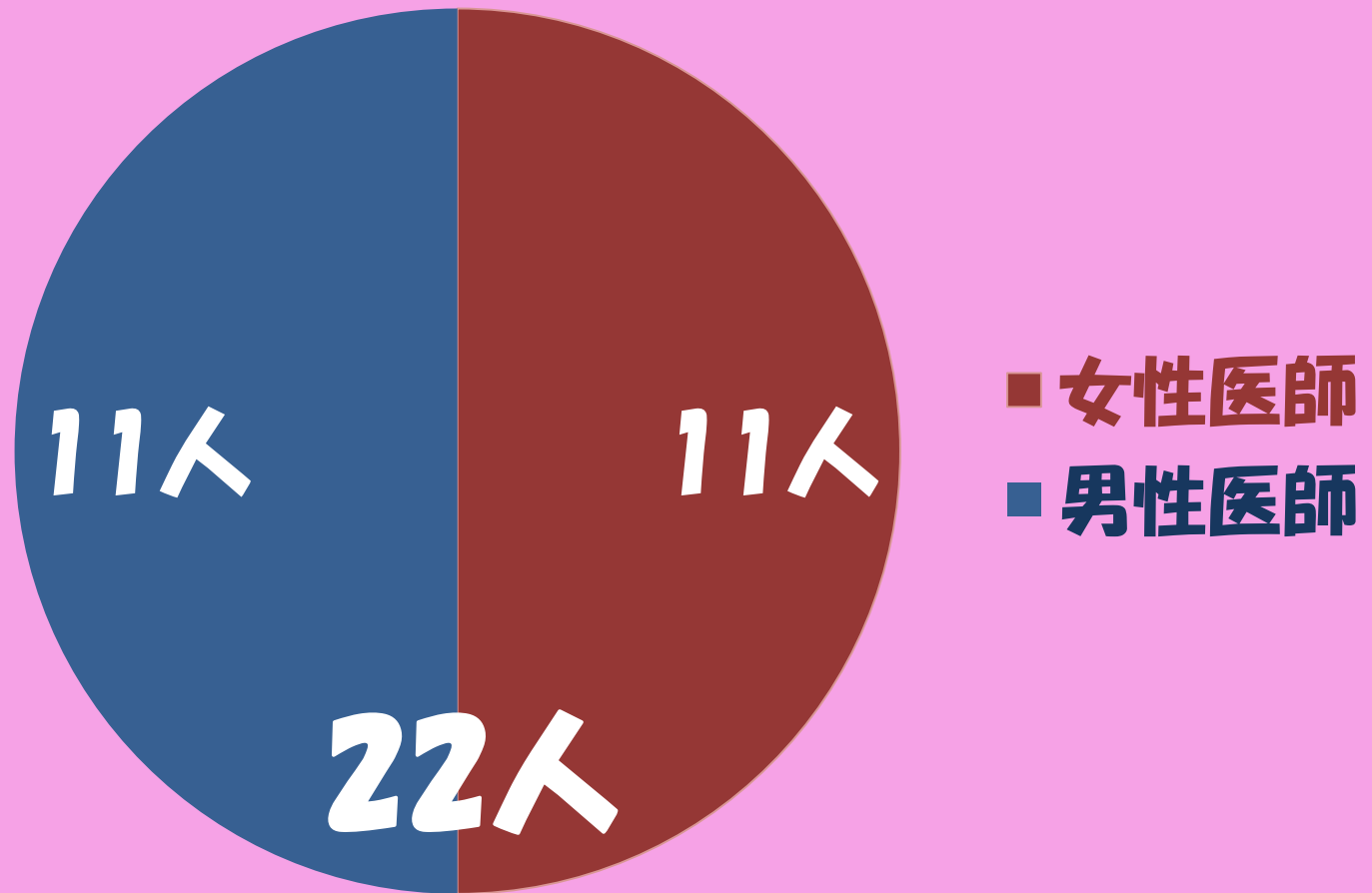


当救命救急センターの
♥ 女性医師 ♥

東京女子医科大学 救急医学
並木 みずほ 矢口 有乃

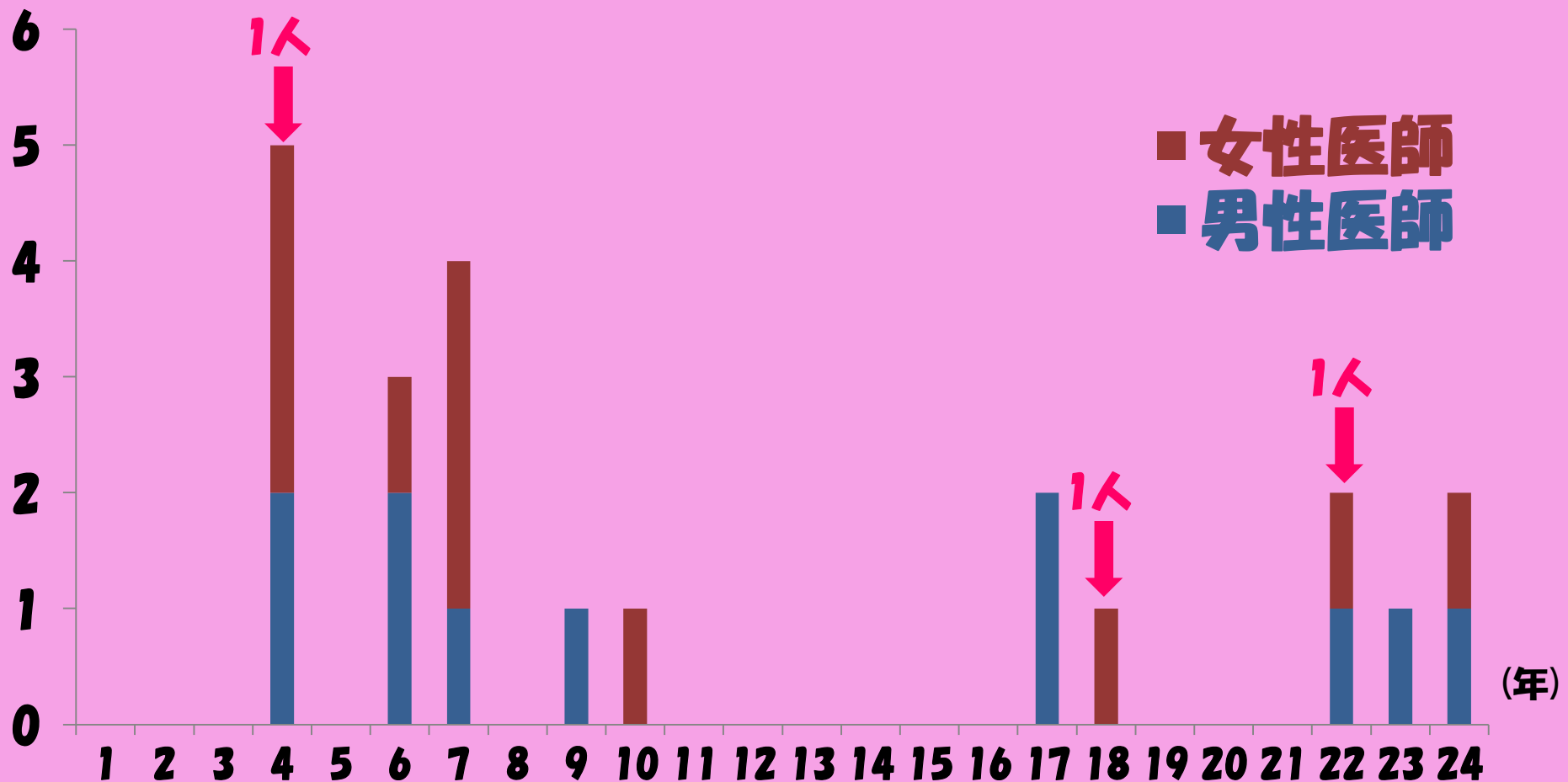
当救命救急センターの ♥常勤医師の内訳♥ (性別)



当救命救急センターの

♥常勤医師の内訳♥

(人) (経験年数と性別・育児中の女性医師)



当救命救急センターの

♥ 診療体制 ♥

一次救急
二次救急

→ 各内科系診療科より
(当科の常勤医を含む)
1か月ごとのローテーション
医師で構成

三次救急
ICU: 12床

日勤: 9時～17時 夜勤: 17時～9時
各勤務帯2人ずつ 休日は日勤3人

一般病棟: 26床

+

初期研修医

日勤: 8時～16時 夜勤: 16時～8時
各勤務帯1～2人ずつ

当直: 6～8回/月

東京女子医科大学の (男女を問わない)

♥臨床系医師の短時間勤務制度♥

- * 対象: 臨床系教員・医療錬士研修生
- * 身分: 現職のまま
- * 勤務時間(1週間)・賃金:
 - 5日勤務 36時間→基本給の8割
 - 4日勤務 32時間→基本給の7割
 - 4日勤務 28時間→基本給の6割
 - 3日勤務 28時間→基本給の6割
- * 賞与 支援期間は賞与算定期間に含まない
- * 各種手当 当直手当は別途支給
- * 通勤手当 支給
- * 社会保険 有



当救命救急センターの♥ママドクター♥①

4年目医師(長男 3歳 長女 10か月)

2010年(大学5年生) 第1子出産

2011年(医師1年目) 東京女子医科大学 卒業
東京女子医科大学 救命救急センター 入局

2014年(医師3年目) 第2子出産

現在に至る(現在救急外来担当)

【医療錬士研修生】
週5日の勤務で36時間 利用

- * 全身がみられる医者になりたかった！
- * 急変や三次に対応している姿がかっこいい！
- * 救命科の先生方が好きだった！
- * ここなら子育てできる！と感じた

当救命救急センターの♥ママドクター♥②

18年目医師（長女 中学2年生 次女 小学6年生）

1997年（25歳＝医師1年目） 東京女子医科大学 卒業
東京女子医科大学 救命救急センター 入局

1999年（27歳＝医師3年目） 結婚

2000年（28歳＝医師4年目） 第1子出産

2001年（29歳＝医師4年目） 日本医師会認定産業医 取得

2001年（29歳＝医師5年目） 救急認定医 取得
東京女子医科大学 大学院 入学

2002年（30歳＝医師6年目） 第2子出産

2005年（33歳＝医師8年目） 医学博士学位取得
東京女子医科大学 大学院 卒業
東京女子医科大学 救命救急センター 復職

2006年（35歳＝医師10年目） 離婚

2007年（35歳＝医師11年目） 救急科専門医 取得

2007年（36歳＝医師11年目） 日本救急医学会 ICLS認定インストラクター取得
高気圧酸素治療管理医 取得

2014年（42歳＝医師17年目） 救急科指導医 取得

2014年（43歳＝医師18年目） 現在に至る（現在病棟長）

当救命救急センターの♥ママドクター♥③

22年目医師（長女 小学6年生）

1993年（医師1年目） 東京女子医科大学 卒業
東京女子医科大学 救命救急センター 入局

関節リウマチと診断

1995年（医師3年目） 眼科転科

1999年（医師7年目） 眼科クリニック開院

2003年（医師10年目） 第1子出産

産後関節リウマチ増悪

2004年（医師12年目） 眼科クリニックは閉院。
実家の病院の眼科に就職

2012年（医師20年目） 生物学的製剤にて関節リウマチが劇的に軽快
東京女子医科大学 リウマチ痛風センター内科など、
研修をやり直そうと奔走。

2014年（医師22年目） 東京女子医科大学 救命救急センター 転科

現在に至る（現在救急外来担当）

【臨床系教員】

週3日の勤務で28時間 利用

当救命救急センターの ♥女性医師が多い理由♥

東京女子医科大学
救命救急センター

平成22年度 第3回
女性医師限定

入局説明会

あなたの魅力で
美しすぎる救命センターにしませんか?



日時：平成21年7月25日（土）18時より

要予約：7月16日（木）まで

医局：36085 木村優子/原田知幸/並木みずほ

ベルサイユのばら©池田理代子先生より無断転載

- * 女性のみの医科大であるため
初期研修医も女性が多い
- * 初期研修医は全員
救命救急センターを
ローテーションするシステム
- * 女性医師を積極的に勧誘
- * 女性の医局員が複数名在籍
しているため
- ・ 入局の敷居が低い
- ・ 様々なモデルケースを示せる

女性医師が多いことの ♥問題点♥

- * 勤務帯により全員女性職員の場合がある
→暴れる成人男性患者などの対応が困難
- * 女性特有の損得勘定
→育児に対する理解がないのはむしろ女性医師!!
育児中の女性医師が優遇されることに文句を言うてくる
- * 現在独身の女性医師が同時に妊娠・出産になった場合、
業務をカバーしきれない

当救命救急センターの

♥ 男性医師 ♥

- * 11人中5人が育児中（女性医師より多い）
- * 子供の学校行事や健康状態によって遅刻、早退、休みなどが認められている
- * 育児中の女性医師が優遇されることについて不満は言わない（育児の有無に限らず）
- * 思いやりのある、人として温かい医師が多い

当救命救急センターの

♥今後の課題♥

- * 育児を経験して、なお救急医として現役でいるメンターが居ること
- * 細く永くでもいいから、女性医師が救急医として臨床現場に立ち続けられるように、常にぶれずに支援する姿勢をとい続けること
- * 育児中の男性医師にとっても働きやすい職場であること
- * 入局者を増やし、育児に入る女性医師の業務を無理なく分担できる体制にすること

まとめ

♥ 今後の課題、への対策も含めて ♥

- * 妊娠・出産・育児あいき、の職場であること。
- * 女性の味方は女性、の職場であること。
女性にしか理解できない女性特有の身体的、精神的な面がある。
味方になってもらうには？ 味方になってあげられるには？
- * 自分の‘幸せ’を他人の幸せそうな部分と比較しないで
形成すること。
自分が‘幸せ’であれば、他人の苦楽が理解できる。